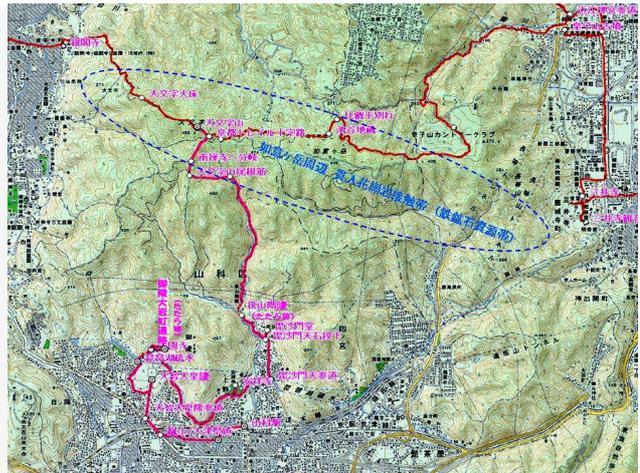
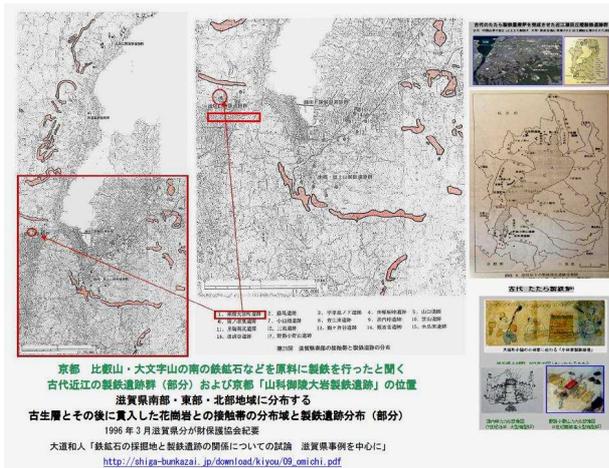


4. 古代の鉄資源帯・花崗岩帯の中 谷筋を詰めて大文字山へ登って 銀閣寺へ



琵琶湖南部の古代の鉄鉱石資源帯と製鉄遺跡分布 山科から古代のたたら跡から大文字山へのルートマップ

13時38分 後山階陵横の登山道を大文字山へ向かって歩き出す。間伐した杉があちこち点在する視界が開けない杉林の中を登ってゆく。初めての道ですが、しっかりとした道が奥へと続いているが、まったく人影なし。



安祥寺川に沿ってまっすぐ北へ杉林の中を登ってゆく登山道 視界はまったく開けず 2013.8.26.



視界が開けぬ林の中の道 暑くて閉口ですが、30分ほどで、この安祥寺谷のドン突きになり、まっすぐ山の斜面を登るルートを一西へ曲がって山間を山科からの尾根道に合流して大文字山へ至るルートの分岐に出る。地図ではまっすぐ登る方が近そうなのですが、案内標識は折れ曲がる方。先で踏跡を探して林の中を歩くのもいやなので西に折れて、尾根道と合流するルートを取る。西側に曲がり、尾根筋近くなった精もあって、明るくなって黒っぽさが消え、何か谷の感じも違ってきたように感じる。ここはもう鉄資源帯の中。すぐ向こうに尾根筋が見える。



指示標識がいずれも左の尾根筋から大文字山に登るようになっていたので、その道をたどる





10分ほどで 空が明るくなり 尾根筋が見えてくる 2013.8.26.

14時30分山科からの尾根筋道に合流するが、やっぱり視界は開けないが、明るい道筋が林の中をまっすぐ大文字山に向かって続く。ふと、足元を見ると土が赤くなっているのに気づく。

石をひろいあげると赤く錆びた鉄の層が石の表面に出ているものが数多くあり、この石が砕けると赤い土になると。磁石を近づけても引っ付きませんが、鉄が含まれている。

この尾根筋の赤い土は この周辺が、大文字山・如意が岳一帯にひろがる花崗岩貫入地帯で古代の鉄資源帯の痕跡を示しているのかも知れぬ。

また、古代には砂鉄原料とは別に、水車を使って臼を引き、鉄鉱石を砕いてたたら製鉄原料にしたと考えられているが、こんな土や赤い石を砕けば、大規模でなければ 鉄鉱石でなくても鉄分を分離精製できると考えられる。



14:30 山科から西の尾根筋を登ってきた尾根道との合流点 2013.8.26.



大文字山への尾根道に合流する 道が明るいのがうれしい 2013.8.26.



花崗岩貫入でできた鉄鉱石資源帯の山 いたるところで 土が鉄さびで赤くなっています



鉄の層が表面に出ている石ころや地面が赤く名手いる場所が尾根筋のいたるところに見られる 2013.8.26.

幾つかこぶを超えてゆくと 京都トレイルとの十字路 そしてそこから斜面を登るとまもなく向こうに南に開けた広場がある
大文字山頂上にでました。(15時02分)

山科の登山口から頂上まで 約1時間半 誰にも出会わぬ視界の開けぬ登山道でしたが、山頂には京都側から登って来た
人が多くいて、みなそれぞれ頂上からの展望を楽しんでいました。

今年の春 この頂上に来たときには霞んで、あまりよく見えませんでした。今日は夏の雨上がり。
京都から山科の市街地が遠くまでよく見え、しばし座り込んで南側に開ける展望を眺めていました。



大文字山山頂 2013.8.26.

15:02



【大文字山山頂からの山科・京都市街地の展望 2013.8.26.】



南東側 山科から醍醐・宇治方面の展望 2013.8.26.

残念ながら今日歩いた疎水の流れる山科北端の山裾は前に広がる尾根に隠されて見えませんでした



南側 東山から 京都駅方面の京都中心部の市街地の展望 2013.8.26.

手前中央山間 隠れていますが、山科から蹴上への三条通り峠越え 右端手前が蹴上



南西側 京都中心部の展望 写真中央が四条河原町周辺 手前右に平安神宮赤の大鳥居 2013.8.26.



大文字山・火床 2013.8.26 15:45



大文字山火床から眺める京都 2013.8.26.
一番奥右から左に河原町と御所、手前には京大界隈

大文字山火床から京都市街を眺める 2013.8.26.



ほかの登山者と談笑したりで、30分ほど頂上において、それから西へ大文字山火床に出て、銀閣寺道へ下ってきました。

大文字山には京阪神の人ばかりでなく、東京や地方の方も数多く登ってこられているのにびっくり。

大文字の送り火が終わった火床の原には ススキの穂がたれ、白いワタスゲが咲いて秋近し。

銀閣寺に下ってきたのは西日の強い16時前。相変わらず、銀閣寺の門前は人でにぎわっていましたが、その喧騒の横を蹴上で分流された疎水の水が静かに京都の市街地へ流れ下っていきました。



大文字山から下ってきた銀閣寺界隈 2013. 8. 26.



銀閣寺前 琵琶湖疏水 蹴上からの支水が銀閣寺にも到達 2013.8.26.

山科にある古代のたたら跡をインターネットで調べていて、偶然見つけたのが発端で、今回 古代の先進たたら跡ならびにその原料となった鉄鉱石を供給したと考えられる大文字山周辺の花崗岩帯を巡りました。

大和王権が近江 瀬田丘陵で育んだ古代の量産製鉄技術は知っていましたが、同じ頃「天智天皇9年(670年) 「是歳、水碓を造りて冶鉄す」の記事が示す先進的なたたら跡が京都山科の山裾にあるなど思いもよらぬこと。また、知っているようで知らなかった山科 緑の山科疎水walkや静かな森に包まれた天智天皇陵も心休まる場所でした。

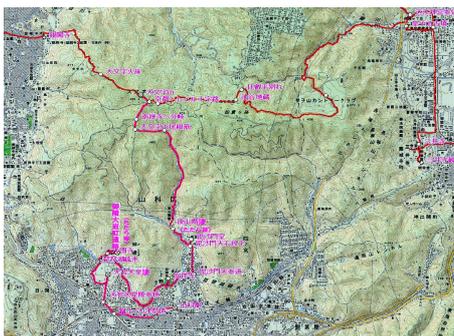
久しぶりに古代に浸る静かなたたら跡めぐり。

暑くてようでかけなかった今年の夏を締めくくるうれしいWalkになりました。



2013.8.26. 銀閣寺の坂をぶらぶら下りながら

Mutsu Nakanishi



【参考資料】

1. 1996年3月滋賀県文化財保護協会紀要 大道和人「鉄鉱石の採掘地と製鉄遺跡の関係についての試論」
http://shiga-bunkazai.jp/download/kiyou/09_omichi.pdf
2. 『京都市遺跡地図台帳』(2007) 御陵大岩町遺跡 & 後山階陵遺跡
3. 京都市歴史資料館 フィルド・ミュージアム京都 より
<http://www.city.kyoto.jp/somu/rekishi/fm/ishibumi/html/ya008.html>
4. 北海道大学博物館 天野哲也ほか 「コラム -御陵大岩町遺跡の水碓-」
www.city.kyoto.jp/bunshi/maibun/tizudaityou/yamasinaku.html

【和鉄の道& 風来坊】

1. 瀬田丘陵 源内峠製鉄遺跡・野路小野山遺跡を訪ねて
古代官営大製鉄コンビナートに発展させた近江の製鉄技術、2007.1.
<http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/7iron03.pdf>
2. 新緑の京都銀閣寺から大文字山越して大津・三井寺へ 2013.4.26.
<http://www.infokkna.com/ironroad/dock/walk/13walk04.pdf>

京都 比叡山・大文字山の南の鉄鉱石などを原料に製鉄を行ったと聞く
古代近江の製鉄遺跡群（部分）および京都「山科御陵大岩製鉄遺跡」の位置
滋賀県南部・東部・北部地域に分布する
古生層とその後に入した花崗岩との接触帯の分布域と製鉄遺跡分布（部分）
1996年3月滋賀県分が財保護協会紀要
大道和人「鉄鉱石の採掘地と製鉄遺跡の関係についての試論 滋賀県事例を中心に」
http://shiga-bunkazai.jp/download/kiyou/09_omichi.pdf

第21図 滋賀県南部の接触帯と製鉄遺跡の分布

1. 御陵大岩町遺跡	2. 藤島遺跡	3. 平塚池ノ下遺跡	4. 津羅基峠遺跡	5. 山口遺跡
6. 南ノ庄東遺跡	7. 小山池遺跡	8. 香山南遺跡	9. 新内峠遺跡	10. 笠山遺跡
11. 月輪南沢遺跡	12. 三池遺跡	13. 割ヶ野谷遺跡	14. 坂首遺跡	15. 米風原遺跡
16. 波崎谷遺跡	17. 野路小野山遺跡			

古代のたたら製鉄遺跡を発展させた近江近畿製鉄遺跡群
大津・宇治山崎・瀬田・比叡山・大津・新緑谷・津羅基峠・山科御陵大岩町遺跡

古代「たたら製鉄」
大津市小幡の小幡宮に伝わる「小幡宮製鉄遺跡」
山科御陵大岩町遺跡（山科御陵大岩町）
野路小野山たたら製鉄遺跡（野路小野山たたら製鉄遺跡）